

第9回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 平成30年4月26日（木） 15:00～16:50
 【場所】 北別館4階 第1会議室
 【出席者】 検討委員会委員 14人 欠席2人
 教育委員会事務局 8人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 議題

（1）第8回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会摘録について

発言者	発言内容
委員長	<p>前回、まず調整地公園活用の可能性についての事務局からの説明、次に小中一貫校についての議論、後半は、見直しのポイントになりそうな箇所についての共通認識をした。</p> <p>以上が本日の配布資料1として、個人が特定されないよう配慮した摘録とされている。</p> <p>この摘録の内容でよろしいか。</p>
全委員	承認

（2）小中一貫校について

委員長	<p>まず会議の取り扱いについて、本日の委員会も原則公開で進めたい。但し状況次第で会議の途中でもの公開・非公開の扱いをお諮りすることもある。このような取り扱いでよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次に小中一貫校について、この件については前回資料を見ながら議論し、色々なご意見等を頂いた。また新たな意見等があれば出していただいて、今回、検討委員会として一定の考え方にまとめる事ができればと思う。</p> <p>前回出た意見をキーワード的に、学力向上、乗り入れ授業、学校規模、教員免許と括ってみた。</p> <p>まず、中学校から小学校へのいわゆる乗り入れ授業もある程度の学校規模がなければ難しい、小学校の教員免許も原則必要という意見。</p> <p>次の括りは中1ギャップと連携教育。小中一貫校の一番のメリットは中1ギャップの解消だが、一貫校でなくても対応は可能との意見。</p> <p>次のキーワードは人間関係の固定化。学校規模によっては9年間、人間関係が固定化していじめ等が懸念される意見があった。</p>
委員	<p>一教科一教員に近いような学校規模では、小中一貫になっても厳しい。小規模校を作らないことが一番大事ではないか。</p>
委員	<p>前回、説明いただいた小中一貫型の小中一貫校であれば、大牟田市での</p>

	導入も考えられるのではないかな。その場合、一部の校区に限らず、全市的な検討があっても良いのではないかな。
委員	<p>全市的に小中一貫校に集めて定員を確保するように見える。基本的に校区の子どもがその小学校、中学校に進んでいくのが前提。</p> <p>また転校したらそのギャップはどこで埋めるのかなど、課題ある。</p> <p>規模の問題を検討する意味でこの委員会は立ち上げられたと思う。適正規模・適正配置でやっていくのが基本的には良いと思う。</p>
委員長	前回の意見も併せて、議論をまとめてみたいので時間をいただきたい。
休憩	5分間
委員長	<p>皆さんの意見として、小中一貫校は国が言う、学力アップや不登校の解消については一定期待されるが、トータル的に見て大牟田市にとっては想定される課題等に対して危惧する、心配する意見が多かった。</p> <p>このことから当委員会としては、大牟田市にとって小中一貫校の設置が望ましいであるとか進めるべきというのは厳しい。</p> <p>公立の小中学校としての全市的な教育環境を捉えるには、小中一貫校ありきではなくて小中一貫教育や小中連携の推進ということになると思う。</p> <p>以上、小中一貫校の議論を終えたい。</p>
全委員	異議なし

(3) 中間見直しの論点整理

委員長	冒頭申し上げたとおり、前回の委員会で、現計画のどこが見直しのポイントになりそうなのか共通認識した項目等を、今回資料2としている。これを基本に整理をしていく事で答申の文案が出来上がっていくと考える。そのような進め方でよろしいかな。
全委員	異議なし
委員長	<p>この資料にある項目を、これまで委員会の中で議論してきた事を補足しながら進めて行きたいと思う。委員の皆さんからはそれに関連する質問、意見があれば適宜、出していただきたい。</p> <p>それではまず、現計画の2ページ「2 適正規模・適正配置の基本方針(1)再編基準(の見直し)」について、これまでの議論の中で、適正規模・適正配置の考え方自体はそのまま、弾力的な運用の視点を持った方が良いのではという意見が多く出ていた。言い換えれば、地域の実情や教育環境を考慮した意見が出ていた。</p> <p>このような文言を付け加えることに意見等があればお願いしたい。</p>
委員	ある程度弾力的に運用していかないとどこかに歪が出てくると思うので良いと思う。
委員	同じ意見。ある程度、国の基準は大事にしながらも地域の実情に合わせて弾力的な再編を行っていただきたい。

委員長	弾力的な運用のご意見はたくさん出た。ここには、弾力的な運用の視点を加えるような考えで整理をしたい。
全委員	異議なし
委員長	3 ページ「(2) 小中学校の適正規模」について。 学校の規模について12～18クラスを適正規模にしているが、これまで弾力的な運用についての意見として、地理的条件、特に通学等の配慮によって、適正規模になるのは難しい場合、中学校においては9学級の規模までなら教科の定数配置も教育環境上、許容できる範囲。また、宮原中学校の再編後の学級数が9学級である事。学級数に関して国の手引では9学級以上であれば、全学年のクラス替え、免許外指導の解消が可能であると謳っている。などの意見が出ていた。 中学校は9～11学級の規模については、弾力的運用の範囲という考えでよろしいか。
全委員	異議なし
委員長	逆に、18学級より大きな規模、例えば19～21学級の規模はどうか。再編に伴って18学級を少し越える規模になる事も想定されるが。
委員	一時的に18クラスを超えても基準という文言で対応できるのではないかと思う。
委員長	下も上もということの視点。これは可能性が無い訳ではないので、そのような視点を持つという事で対応したいと思う。 それでは小学校はどうか。現計画では小学校も中学校と同じ12～18学級が基準である。
委員	駿馬南、北が合併したが、4月からの実数はどうか。
事務局	285人、普通学級12学級、特別支援学級2学級で14学級。
委員長	小学校は中学校より地域の結びつきが考えられるので、小学校も中学校同様に弾力的な視点を持つ事でよろしいか。
全委員	異議なし
委員長	小学校は中学校のように弾力的と言っても数値で示す事が難しいのではないかと思う。例えば「できればクラス替えが出来ることが望ましい」とかの表現を付け加えたらと思うが、いかがか。
全委員	異議なし
委員長	続いて、4ページの適正配置について。ここでも弾力的運用の視点の意見があった。具体的には学校視察を経て、再編後の学校として将来を見据えた場合に学校敷地や施設等についての意見が多く出された。 学校の位置が少し遠くなくても施設などの教育環境が整っているところが良いとの意見もあった。

	適性配置の考え方は持ちながら地域の実情や教育環境も考慮し、といった文言を付け加えるかどうか。
委員	現計画を基本的に尊重すべきだと考えるが、地域の実情、施設など諸々のことを考えてベストな教育環境となるには、弾力的というのが必要なのではないか。 また通学時間については、一定のルール作りが必要になってくると思う。
委員長	国では、通学距離と併せて通学時間という新しい概念に触れているが、通学時間については、今後ルールづくりを行う事でよろしいか。
全委員	異議なし
委員長	次に5ページの「(4) 適正規模・適正配置の手法」について。 これまでは適正規模・適正配置の手法として、関係校同士の対等な関係で新校開校を行ってきた。基本的にはこの考え方を踏まえつつも今後、再編の形態として通学区域の一部変更・編入といったことも適正規模・適正配置を進める形として想定される。 例えば三池小学校が歴木、田隈中に分かれているが、どちらかへの編入もあり得る。校区に一部変更や編入等もあることの追記が必要ではないかと思うが。
委員	実際、そのような場面が出てくるだろうと思うが、大牟田市はこれまで「再編」という言葉を使ってきた。「合併、吸収」の言葉は使わないように、あくまでも対等にはならないにしても「再編」という言葉を活かし残していただきたい。
委員長	かつては、統合か廃止の言葉が前面に出ていた。そうではなくて今は再編、再編は学校づくりだと思う。学校を無くすのではなくそれぞれの学校の良さを基本にしながら、最終的には子どものために地域と一緒に学校づくりをやっていく事が再編だと思う。 その中で一部校区の変更、編入はあり得る。これも再編の一手法だという事も理解しないと、これから先はうまく進まないのではないかと思う。
委員	私も同じ意見。小学校の再編を経験したが、地域の人たちは合併とか吸収されるという負のイメージが蔓延したが、子ども達、先生、親、地域の順で吸収合併のイメージは薄れていく。一緒になる時難しいのは地域。そこに説明の場を設けて進めていくことが一番大事ではないかと思った。
委員長	再編を経験された貴重なご意見を頂いた。やはり基本は子どもを一番に据えた学校再編。最後は地域への説明、そして理解を得るために時間をかけてもしっかりやる事が大事ではないかと思う。100%賛成は中々ないが、全体的な総意を作り上げていく努力をやるべきではないかと思う。
委員	私も小、中学校の再編に関ったが、100年以上続いている地域もある。それぞれ違う考えの地域に、再編に向けてこういう形でやっているという説明をすれば、少しずつ理解が出てくるのではないか。しこりが残ったまま進めるといけない。きちっとした対応をしていくのが一番大事ではないか。

委員	<p>最初は吸収される、合併されると聞いたが、時が経つにつれてほとんど聞かれなくなった。「再編」という言葉が有難い。子どもたちはきっと解決してくれるかなと思っている。</p>
委員長	<p>次は「市立学校の適正規模・適正配置のための学校再編に伴う諸課題についての基本的な考え方」の（２）学校施設の整備について。</p> <p>これまで、一つは仮校舎での運用は負担が大きいとあった。また、施設整備はできるだけ再編前に終わらせて欲しい等があった。今の様な事を書き加えた方が良いかご意見等を伺いたい。</p>
委員	<p>仮校舎の負担が大きいのは、引越を２回やる形になる事。新しい学校としてのスタートだという時に子ども達にとってもう一回後で戻るという事はピンとこないところもある。また、出来るならば開校する前に可能な限り施設設備等の改修をやって気持ちも新たにスタートできるのが望ましいと思う。</p>
委員長	<p>負担を無くすのは無理にしても軽減もしないといけない。そのように書き加えたいと思う。</p>
委員長	<p>次は６ページ「学校再編整備に当たっての配慮事項（１）学校再編協議会の設置」について。</p> <p>これまでの学校再編が円滑に進められてきた要因として、学校再編協議会が果たしてきた実績がある。今後も協議会の設置は基本的に変わらないが、先ほど再編の手法のところでは通学区域の一部変更や編入を行う事になれば、今後学校再編協議会に拠らない事もある状況が想定される。そのことを少し補足した方が良いかと思うがいかがか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次の配慮事項に「中間見直しに係る周知等について」、「小中一貫校について」、「再編に必要な財源の確保について」など、これら今まで出てきた事を新たな項目として追記をし、説明を少し入れたらと思うが。</p> <p>中間見直しの周知は非常に大事なことで、小中一貫校も２回にわたり議論をしたこと。それから今まで再編には相当費用がかかっているため財政計画をきちっとする意味で、そのようなことをここに追記する事でよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次に６ページの「５ 適正規模・適正配置による再編計画」について、ここが現計画の中間見直しの具体的な内容になる。</p> <p>「（１）計画期間」について。先ほど「中間見直しに係る周知」があったが、学校再編の時期は中間見直しの内容とその周知期間等も十分に踏まえる事が必要、とすれば再編時期の見直しも必要ではないかということ。</p> <p>検討委員会の答申、その後市の計画策定や地域の説明、それから対象となる地域での学校再編協議会の設置、施設整備等、このような過程を考えると現計画の平成３３年４月再編は現実的に相当厳しい感じがある。特に、関係者への周知等丁寧に進めていく必要があるが、今後どのくらいの期間が必要となるのか、意見があればお伺いしたい。</p>

委員	<p>恐らくこの計画では期間的に難しいだろうと思っていた。答申を説明、それを吸い上げる期間。その意見を基に細かい修正等、再度説明、合意形成。それから学校再編協議会がスタートし2年間をかけて取り組む。</p> <p>今年が30年度で、2～3年は延びるのは妥当だと思う。加えて仮校舎を使わずに施設整備を行うなども踏まえれば、期間の見直しが是非必要となってくると思う。</p>
委員長	<p>そうすると、現計画にある中学校の再編は早くても平成35年頃ということか。また、先に再編時期ありきではなくてこれから地域への周知と理解が不可欠という意見だと思うが。</p>
委員	<p>通学路の整備が間に合うのかが気に掛かる。宅峰中の通学路について、国道にブルーの自転車道路が整備されたのも昨年で、踏み切り歩道の整備工事が完了したのも昨年だった。</p> <p>計画に挙がっている中学校は宅峰に比べると地域は広いし、複雑な所が多いので、通学の危険性を整理してからが保護者も安心されると思う。</p>
委員長	<p>通学路を安全に確保する事は当然で、このような事は事前に詰めてきた事だと思うが、実際にやるとなるとさらに時間が必要だということか。</p>
事務局	<p>再編までの過程には、まず大きな計画があり、個別に関係する地域で再編協議会を立ち上げていただき、そこで通学路の現地確認等を行い、それぞれ関係する機関等に要望・要請を行い、現実問題、予算をとってから工事となる。</p> <p>特に、踏切等は列車を運行させながらで、難しいと聞いている。</p>
委員長	<p>いろいろ調整する機関等、一つやるにしても中々スムーズに行かない部分もあるかと思う。</p>
委員長	<p>次の10ページ「第2期計画」。ここでは中学校6校を3校へ再編を目指すとしている。ここが今回検討の大きな要点と思う。</p> <p>現計画では再編後の学校位置を現橋中学校としているが、この検討委員会では再編後の将来を見据えた場合に、橋中学校の活用には施設面での課題が出された。このため、施設の整備パターンに加え施設の既存の近隣校活用の意見も出された。以上の経緯をここに記載する事になろうかと思う。</p> <p>なお、現計画にある橋中学校の位置は適正規模・適正配置の基本的な考えに沿ったもので、検討委員会ではこれまで適正規模・適正配置という現計画の基本的な性格も尊重しながら議論を重ね、見直しの方向性を出すに至ったが、今後、教育委員会において実施計画を策定する過程では保護者や地域等の意見を広く聴くことが必要と思う。</p> <p>以上申し上げた事を付け加えて、ここに記載をすることでいかがか。</p>
全委員	異議なし
委員	<p>まったく否定する訳ではなく、適正な位置で言えば確かに橋中がベストなポジションであるのは間違いない訳で、方向性として近隣校の活用を残しつつも、最初の案である橋中の活用も併記して考えていく方向性で良いのではないかと思う。確か前回計画を作った時は市民の意見でパブリック</p>

	コメントの募集等もあって市民の意見としてこのような案も出てきていると思うので、形としては併記するような形で良いのではないかと思った。
委員長	現計画の中にも橘中学校の施設面の課題が書かれているが、検討委員会は、そういった課題を現地視察等で確認をし、何か違う見直し方向性はないか検討した。もちろん基本に適正規模・適正配置がある訳で、そういった意味で先程申し上げた表現で整理をしたいと思う。
委員長	<p>10・11ページに、課題として通学区域の見直しがある。</p> <p>通学区域に関して、小学校は同一の中学校へ進学する。中学校で分かれることが基本的な考え方としてあるが、現在、三池小学校区は田隈・歴木中に分かれている。</p> <p>また、白川小学校区の内、白光中に近い区域については今後通学区域の一部見直し等、弾力的な運用が必要になるのではないかと思う。ここは今回の答申の考え方などを基に地域の意見を聞くことも必要だと思う。</p> <p>今後、教育委員会において実施計画を策定するに当たっては、保護者や地域等の意見を聞きながら対応が必要と、記載してはいかがか。</p>
全委員	異議なし
委員長	それから第2期計画の再編時期がここに記載されている。平成31年度から36年度について、現計画の中間見直しと周知期間、その後のスケジュール等、先程出ていたが再編までに必要な期間等を考慮すると少し伸ばす必要があるのではないかと思う。しかし教育環境整備の必要性からも現計画期間内、平成36年度を目途に中学校再編を行われる事が望ましいと考えられるがいかがか。
全委員	異議なし
委員長	<p>次は「(2)6中学校区内の小学校の再編」。</p> <p>小学校の再編も大きな論点だが、現計画では中学校の再編を先に行いそれに関連する小学校の再編をその後に行う考えなので、それを踏襲すれば中学校の再編時期が延びた場合、小学校の再編は今の再編計画期間内に行う事が難しくなると思う。</p> <p>そうなる計画期間そのものを延ばすのか、それとも今の再編の考え方を基に新たに次期計画として取り組むのか、その方向性についていかがか。</p> <p>これは後でまた整理をしたいと思う。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は現計画の最後、「その他の小規模校」について。</p> <p>適正規模を満たしていない4校の小学校について述べられているが、これまで委員会の議論の中で、再編には地理的な要因や地域の実情あるいは教育環境等を考慮する事も必要ではないかとの意見が出ている。</p>
委員長	<p>以上、前回、今回と見直しの論点を整理してきた。</p> <p>次回に向けて事務局で整理をお願いしたい。</p>

(4) その他

委員長	<p>今回は、まず前回の会議内容と摘録を確認した。次に前回に引き続き小中一貫校について議論を行った。</p> <p>後半は、前回の続きで現計画の見直しの論点を整理した。今回の協議で答申の内容や方向性がかなり整理されたものと感じている。</p> <p>次回は今回までの議論を踏まえ答申の素案を皆さんに提示できればと思うので、それをベースに検討議論を行いたい。</p> <p>なお、素案はこれまで皆さんの意見や考え方を基に、私と事務局のほうで作ってみたいと思うが、よろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	その他、何か無いか。事務局から次回開催について何かあるか。
事務局	今日の段階では、次回は5月半ば過ぎ位を予定できたらと思う。
委員長	<p>5月の半ばということで1回、あと1回を5月末か6月に入るくらいか。</p> <p>委員の皆さんには5月までは最後までお付き合い願いたいと言っていたが、6月になるとどうか。</p>
事務局	5月半ば過ぎくらいに開催として、どこまで修正があるかもあるが、次を5月末か6月頭くらいと思う。6月は皆さん方のスケジュールや新しい年度の行事もあるかなと思う。
委員長	場合によっては6月に入る事もあり得るということを私からお願いしたい。そうなった場合6月最後までお付き合い願いたい。そうしないと仮にメンバーが変わると大変。最後までよろしくお願いしたい。今日、了解を得たということで事務局、処理をお願いしたい。
全委員	異議なし
委員長	それでは、以上で本日の審議を終了したい。

3 閉会